

「国文学」の制度化に関する基礎的研究－「国文学」はいかにして大学の中に根づいたか－

【代表者】 野本 瑠美 島根大学 法文学部 准教授

【共同研究者】 田中 則雄 島根大学 法文学部 教授
渡邊 健 米子工業高等専門学校 教養教育科 教授
原田 健太郎 島根大学 教育・学生支援機構 講師
(2021年4月より 島根大学 教育・学生支援本部 講師)

【研究の目的と内容】

1. 本研究の目的

本研究は、帝国大学設立期と戦後の新制大学発足時という、大学史上画期となった二つの時期を中心に、官学アカデミズムの中心にあった帝国大学（東京大学）において、日本の文学を研究対象とする学問「国文学」が、大学の教育・研究に組み込まれる過程や変遷を明らかにし、大学という組織の中で国文学が果たした役割を具体的データから検証することを目的とする。具体的には、①「国家ノ須要ニ応スル學術」（帝国大学令）を志向し設置された帝国大学において、輸入学問が中枢を占める中に国文学という専門課程が設置された経緯と目的、その後の課程やカリキュラムの変遷、新制大学における変容を通史的に把握する。②大学における国文学教育の成果と人材輩出への寄与を明らかにするため、日本学術振興会発行『専門別大学研究者・研究題目総覧』所収の研究者情報をもとに研究者データベースを作成し、明治期から現代までの研究者養成の全体像を把握する。

2. 本研究の内容

大学史に関わる基礎的情報の整理とデータベースの構築を目指し、まずは先行研究の整理と帝国大学時代の最重要資料である『東京帝国大学五十年史』を基盤とした調査及びデータベース化に取り組んだ。前年度までに、帝大の基本資料たる『東京帝国大学五十年史』による講座変遷と所属教員の情報の整理、『東京大学百年史』及び学術誌『国語と国文学』等による昭和3年（1928）以降～現在までの所属教員の変遷を整理し終えた。また、戦後の大学・短大所属の国文学研究者データベースの作成のため、日本学術振興会発行『専門別大学研究者・研究題目総覧』（1960年・1970年版）所収の研究者情報（約2300名）の入力を完了している。

以上を踏まえ、令和2年度は以下の2点に取り組んだ。

- (1) 1979、1984、1990、1996年版『専門別大学研究者・研究題目総覧』のデータ入力。
- (2) 学問分野の成立について、明治の帝国大学設立期と戦後の新制大学発足時という大学史上二つの拡張期を中心に、制度・研究者養成の観点から分析・考察を加える。

【研究の成果（本研究によって得られた知見、成果、論文、学会発表、外部資金への応募見込み等）】

1. 得られた知見

近代国家が形作られる中で、日本の「文学史」、次いで「国文学」という概念が誕生した。国家を単位とする「文学史」は、1876年対外政策として明治政府が編纂した『日本教育史』が早い。明治初期の文学史では、当時の中心的な書記言語であった「漢文」と「和文」の文学が並列される形式であったが、やがて「漢文」の要素が削除されていき、1890年、三上参次・高津鋏三郎『日本文学史』や芳賀矢一・立花銚三郎『国文学読本』、上田万年『国文学』の刊行によって、「国民が国語で記述した文学」という自己規定のもと、源氏物語や枕草子、江戸時代の小説、俳諧等を文学の代表とする「文学史」と「国文学」の概念が形成されていった。

1890年に相次いで出版されたこれらの図書は、設置されたばかりの東京大学文学部和文学科で日本の語学文学を中心に学びつつ、西洋の文学史や文学論に触れた学生・卒業生の手になるものであった。以後、様々な文学史が濫造されるが、その要因は中等教育機関での教科書としての需要に拠るところが大きい。こうして、明治後期に確立した「国文学」観は、中等教育を主要なルートの1つとして全国へと広まったのである。

戦後の新制大学発足後、大学数の増加に伴い大学教員数も大幅に増加したが、中でも国文学研究者の増加率（2.23）は全体の増加率（1.83）を大きく超えている。この要因として、戦後の女子大学・短期大学の増加が挙げられる。多くの女子大・短大では家政・英文学と並んで国文学が専攻として用意されていた。「実利的でない」ゆえに女性が学ぶのに「ふさわしい」学問とされた負の側面も指摘されているが、一方で高等教育への女性進出の契機となり、国文学分野での女性研究者の増加に繋がった面もあろう。女性教育や女性研究者養成という観点からも、引き続き調査を行っていきたい。

2. 研究成果の発表と外部資金への応募見込み

予定していた1979、1984、1990、1996年版『専門別大学研究者・研究題目総覧』所収の研究者情報（約8500名）の入力を完了した。これまでの調査研究をもとに以下の研究発表を行った。

- 原田健太郎「戦前期の日本の大学における国文学の制度化に関する基礎的研究－国文学はいかにして日本の大学に根付いたか－」日本高等教育学会第23回大会（オンライン）、2020年5月30日
- 野本瑠美「近代学問としての「国文学」：その成立と展開」山陰研究センター主催/連続セミナー「今後の地域研究のために」（オンライン）、2020年12月23日

今回得られたデータの分析をさらに進め、次年度は科研費等の外部資金獲得に挑戦したい。